

令和6年度 第3回体力向上ステップアップミーティング報告

開催期間	令和7年2月13日(木)、14日(金)
場 所	五條市上野公園総合体育館シダーアリーナ、金魚スクエア
内 容	実践報告 「ICT 機器を用いた個別最適化の授業づくり」 講師 天川村立天川小中学校 後期課程体育主任 清水 博誌 氏 講義 「カリキュラムマネジメントについて」 実技講習 「体づくり運動・器械運動について」 講師 県教育委員会 体育健康課 指導主事 米川 奈緒

実践報告「ICT 機器を用いた個別最適化の授業づくり」

生徒と指導者にとっての ICT を利用することの利点と様々な活用法について、御紹介いただきました。心拍計を用いて、長距離走(後期課程)における個人の運動強度を可視化した実践を発表してくださいました。

心拍数をモニターに映し出すことで、生徒の声かけが抽象的なものからの確かな声かけへと変化するとともに、長距離走への苦手意識の払拭、意欲の向上につなげることができた ICT 機器を効果的に活用した実践でした。

また、学校体育では、アスリートを育てるのではなく、「生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てること」で、その視点で授業づくりをすることが大切であることを伝えてくださいました。

講義「カリキュラムマネジメントについて」「体づくり運動・器械運動について」

年度末の統括に向けて、年間指導計画に示した事項が校内で適切に実施されたか、出てきた課題は何か等について、会議でふり振り返り協議する必要があることを伝えました。また、次年度に向けて体力的課題を踏まえた課題解決のための取組とその考え方について伝えました。

【参加者アンケートより】

○現在マラソン大会について話し合っているところで、距離を決めるのではなく、走る時間を決めてどれだけ走ることができるかの記録会にするか、距離を2択にして今回の講義でもありました「チャレンジコース」「けんこうコース」のように児童自身が自分に見合ったコースを選ぶことができるようにするなど、様々な案が出ています。ただ、低学年の児童など自分のペースや、体力がわからなかったりするので今回のハートレートモニターなどを活用してみるのも1つの方法だと思いました。また、学習指導要領の持久走の項目をもう一度確かめつつ、校内で最適なマラソン大会の工夫をしていきたいと思いました。

○自分は、今までタブレットを使うことが大変であると感じていました。しかし講師の先生の話聞いて、できることから少しずつやっていくのが大切なのだと感じました。また実技では、児童の実態に合わせるだけで、その場の空気感も変わり、どの学年でも楽しめる内容であると感じました。

○いろんな先生と交流できて、刺激になりました。ハートレートモニターは配慮を必要とする長距離が苦手な子どもにも使うと有効かもしれないと思いました。何色で続けて走ろうなど声掛けができるなと思いました。

○今回も体験しながら学ぶことができたので、子どもたちへの指導のイメージがとてもわきやすかったです。器械運動の観点から見ても、低中高学年でどのようなことを身につけさせないといけないのかを系統的に理解しておく必要があると改めて学びました。それぞれの学年でしっかりと積み上げていく必要があると感じました。

長距離走についても、学校としての指導のあり方を学習指導要領に沿って、見直していく必要があると思いました。自校でもマラソン大会に取り組んでいるが、距離や方法など、もう一度見直そうと思いました。

○本校の子どもたちの現状と課題と照らし合いながら学ぶことが出来ました。先生方と悩みを話し合う機会では、スモールステップについてや根本的な実技活動など課題解決に向けて話し合うことが出来ました。ICT の活用については、使用時を考えて効率的に使っていききたいと思いました。

○今回の研修でもたくさんのことを学ばせていただきありがとうございます。体つくりの実技では、実際に動きを確認することで体の使い方のポイントが伝えやすくなるということや、ゲーム性を持たせることで楽しみながら運動量も確保できることがわかりました。まだまだ知らないことがたくさんあったので、様々なことを教えていただきとても勉強になりました。実践報告でもハートレートモニターを活用した持久走について、さぼっているように見えるペースであってもモニターを見ることでその子にとっては適正なペースであったり、もしくはオーバーペースであるということで、声の掛け方が大きく変わってくるということを学ばせていただきました。また、体育時の危機管理という観点から見ても、心拍数を確認することで、ペースを落とすように促すこともでき、素晴らしいことだなと感じています。

○奈良県としての課題や取組みを校内でどのように浸透させるのかを考える機会になりました。研修で得たことを、追加するような形で校内に共有するのではなく、年度初めや、必要なタイミングで共通理解することで、学校が少しでも同じベクトルを向けるかもしれないと思いました。

○体育科の指導の中での ICT 活用について考えさせられました。まずは積極的に使うことが大切であり、自分自身、何かしらの理由をつけて使うことから逃げていたのかもしれないと反省させられました。とにかく使うことからはじめ、うまくいかなかったときには改善をし、よりよい形を見つけていくことが、子どもたちのためになると感じることができました。現状動画を見せることにとどまっているため、ふりかえりシートの作成やアプリの活用など、できることから、真似をすることからはじめていきたいと感じました。

○体育についてまだまだわからないことだらけだったのですが、大変勉強になるお話ばかりで、体育の授業に対するモチベーションがすごく高まりました。まずは基本的な知識を身につけるところから頑張りたいと思います。

○今回の研修では、体育科の学習における系統性についてのお話が印象に残りました。そのため、例えばゴール型の指導であれば、低学年で指導したこの内容が高学年ではこのようにいかされる、といったような、系統性について広めることが大切だと感じます。そうすることで、今指導している内容がどのように今後につながるのか、今何を指導しておけば子どもたちの次につながるのかを意識した指導を学校全体として行うことができると考えました。自校で広める場面、タイミングとしては、年度はじめに校内研修を行うのが効果的だと感じます。

参加者内訳

